



にしの ゆうと
西野 有翔 議員(野田生中学校2年)

野田生カーニバルへの広報・資金面の協力について

今年度、野田生カーニバルを実施し、地域からはとても好評で来年もぜひ実施してほしいとの声がありました。地域・学校でカーニバルを継続するには限界があり、広報活動や資金面で町として協力していただけないでしょうか。

答弁)町長

まず広報につきましては、町広報紙やチラシにより町民の皆さんにイベントの周知を行うことは可能であると思います。また、学校のホームページでお知らせすることも有効な方法であると思っています。次に、費用面につきましては、地域をはじめ賛同する方々から協賛金を募ることに大変努力されていることだと思います。地域が主体となり行われるイベントに関わる経費につきましては、公益上の必要性などを考えた場合、町が資金の助成を行うことは難しいことをご理解いただきたいと思います。

しかし、今年度、野田生中学校をはじめ地域ぐるみで取り組まれたプロジェクトは素晴らしいものを感じていますので、今後さらに賛同していただける方々のすそ野を広げながら、継続し、定着した行事となりますことをご期待しています。

ゆめ議会の感想～貴重な体験～

僕は今回ゆめ議会に参加しました。初めての体験で、とても緊張しました。特に緊張したのが、質問をする時でした。質問をする時には、野田生カーニバルについて、しっかりと町長に伝えることができたと思います。また再質問の際には、切り込んだ質問をすることができていたので、とても良かったです。惜しくも、援助をしてほしいという願いは叶いませんでしたが、考えたことすべてを、ゆめ議会で発言できました。他の人がなかなかできない貴重な体験ができて、とても嬉しかったです。

僕は、このゆめ議会という体験を通して、野田生の良さに改めて考えることができました。地域の人の暖かさや、お互い協力しながら暮らしているこの素晴らしい野田生を、今年もイベントなどで盛り上げていきたいです。



たなだ りくと
棚田 陸斗 議員(熊石中学校2年)

高齢者に優しいまちづくりを

熊石地域の公共施設にはスロープや手すりがありますが、商店やその他の施設の設置率は低い状況です。町として設置の呼掛け等は可能でしょうか。また、高齢者や独居老人も多く、日々安心に暮らせるよう、ネット回線などを利用した通信体制は整えられませんか。

答弁)町長

熊石地域の高齢化率は55%を超えており、いろいろと不便を感じている高齢者の方々もいるものと考えています。町内でスロープや手すりを設置した商店などは少ない状況と思われますが、やはり町からは設置を強制することはできませんので、今後は高齢者の状況を伝え、商店などに手すり等の設置に向けたご協力をお願いしていきたいと思います。

次に、ネット回線などを利用した連絡や相談体制の整備についてですが、最近は、スマートフォンやタブレットを使用している高齢の方も増えてきていると思われますが、操作方法などに戸惑うことも多いのではと思っています。持病などを抱えていて日常生活に不安を感じている、ひとり暮らしの高齢者の方を対象に、緊急通報用電話機を貸し出しており、緊急時にペンダントや専用電話のボタンを押すと、消防署に直接つながり、すぐに助けに行ける体制を整備しています。

ゆめ議会の感想～ゆめ議会に参加して～

僕はゆめ議会での貴重な体験から、数々のことを学びました。

最初に、八雲町の問題点を改善する姿勢やスピードに感動しました。ゆめ議会や地区で行う意見交換会などで住民の声を聞くだけでなく、可能な限り改善しているところがすごいと思いました。

次に、自分の意見を言うことの大切さを学びました。誰かが一生懸命に意見を言えば、それに応えてくれる人はきっといるということを、岩村町長の答弁を聞いて思いました。

今回学んだことを、今後の学校生活や生徒会の活動にも生かしていきたいと思いました。これからは全校の意見を聞き、可能な限りみんなが過ごしやすい学校にしていきたいです。そして、生徒会の会議や話し合いがあったときは、みんなが納得するような意見を言いたいです。

岩村町長をはじめ、たくさんの方々のご協力により、スムーズにゆめ議会を進めることができました。本当にありがとうございました。最後に、僕はこのゆめ議会を通して、八雲町の魅力を再確認できました。